

日本睡眠学会 第48回定期学術集会 予定プログラム (2024.5.1 現在)

【海外特別講演】

7月19日(木) 13:30~14:30 A会場 G301+302

座長：磯野 史郎 / 千葉大学医学部附属病院・麻酔科

演者：Alan R. Schwartz / University of Pennsylvania

「Treating obstructive sleep apnea with neurostimulation...one breath at a time」

【特別企画】「Pediatric Sleep Health」

大会長特別企画

7月19日(金) 14:45~17:30 A会場 G301+G302

オーガナイザー：千葉 伸太郎 / 医療法人愛仁会太田総合病院記念研究所附属診療所
太田睡眠科学センター/
東京慈恵会医科大学 耳鼻咽喉科学教室)

【シンポジウム】

シンポジウム1「睡眠関連呼吸障害(SRBD)診断/治療のための睡眠検査(HSAT/PSG)の今後の展開と課題」

大会長指定シンポジウム

7月18日(木) 8:30~10:30 A会場 G301+302

オーガナイザー：八木 朝子 / 久留米大学

【ねらいと概要】「睡眠検査」は、「スリープテック」という用語の登場とともに、医療からヘルスケアへの広がりをみせている。しかし診療報酬のしぼり、検査装置の技術水準、実施環境など、適正に整理され運用されているとは言えない。本シンポジウムでは、まずは睡眠呼吸障害のための検査にフォーカスし、今後の課題について、それぞれの立場から発言をふまえ、ディスカッションを行う。

シンポジウム2「閉塞性睡眠時無呼吸の眠気のクリニカルマネージメントを検討する」

7月18日(木) 8:30~10:30 B会場 G303

オーガナイザー：中山 秀章 / 東京医科大学睡眠学講座

【ねらいと概要】日中の眠気は閉塞性睡眠時無呼吸(OSA)の主要な症状の一つであり、治療により改善することも多いが、一部の患者には、残存することが知られている。OSA診療において、この残遺眠気に対する対応が臨床上の課題となっているが、十分なエビデンスもなく、ガイドライン的なものは存在していない。最近、欧米の専門家からエキスパートオピニオンが出された。その内容を提示するとともに、本邦での現状と課題について議論したい。

シンポジウム3「解剖学的視点から上気道を考える

～内視鏡検査・嚥下造影検査・超音波検査・外科手術・肉眼解剖～

7月18日(木) 8:30~10:30 C会場 G304

オーガナイザー：奥野 健太郎 / 大阪歯科大学附属病院 睡眠歯科センター

【ねらいと概要】本シンポジウムでは、OSAの病態(気道閉塞)、治療機序(口腔内装置・顎外科手術)について、気道内外の評価法である内視鏡検査・X線動画検査・超音波検査や、睡眠外科手術時の気道所見、肉眼解剖学的解析での気道を構成する筋の走行など、解剖学的な視点で考える。既存の治療法である口腔内装置や睡眠外科手術の機序のエビデンスとなるだけでなく、例えば筋機能療法や新デバイスなど新たな治療法のヒントになると考えている。

シンポジウム4「睡眠-覚醒障害は精神疾患の認知・社会機能に如何に影響するか」

7月18日(木) 8:30~10:30 D会場 G401

オーガナイザー：三島 和夫 / 秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座

【ねらいと概要】精神疾患では、注意、学習・記憶、抽象的思考、実行機能など広汎な認知機能ドメインに障害がみられ、社会機能に大きな支障をもたらす。一方、精神疾患では睡眠-覚醒障害も高率に併存し、各種睡眠パラメータと認知機能障害との間に相関性が見いだされている。本シンポジウムでは、精神疾患の睡眠問題(不眠、過眠、リズム障害)が患者の認知機能、社会機能に及ぼす影響とその対策についてレビューと論議を行う。

シンポジウム5「D-ニューロンは、内在性覚せい剤ニューロンか？」

7月18日(木) 8:30~10:30 F会場 G312+G313

オーガナイザー：池本 桂子 / 東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻精神医学分野

【ねらいと概要】D-ニューロンは、芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素(AADC)(+)/ドパミン(-)/セロトニン(-)/微量アミン(+)
のニューロンであり、大半は、覚せい剤と化学構造の類似した、 β -phenylethylamine(PEA)を合成す

るとみられる。この細胞について理解を深め、覚せい剤依存症などの精神疾患の治療において、細胞レベルの介入の可否について考えたい。

シンポジウム6「小児 OSA に対する CPAP 療法の現状・課題」

7月18日(木) 8:30~10:30 G会場 G314+G315

オーガナイザー：鈴木 雅明 / 帝京大学ちば総合医療センター耳鼻咽喉科

【ねらいと概要】本邦における小児 OSA に対する CPAP は諸外国と比較して普及していないのが現状である。その一因として健康保険適用は小児も成人と同じ AHI/REI 値であり、小児 OSA の診断・重症度基準と大きく乖離していることが挙げられている。本セッションでは小児 OSA の本邦における CPAP 治療の現状について掘り下げ、課題を明確にする。小児関連学会の保険医療担当理事が座長を務め、本セッションを小児 CPAP の保険点数改正の布石としたい。

シンポジウム7「スポーツ現場における睡眠管理、睡眠障害の治療」

7月18日(木) 8:30~10:30 H会場 G316+G317

オーガナイザー：西多 昌規 / 早稲田大学スポーツ科学学術院

【ねらいと概要】アスリートにおけるパフォーマンスやコンディショニングを考える際に、睡眠と体内リズムの問題は不可避である。本学会でも、基礎的な議論の場はあったものの、日本代表やプロスポーツなどハイレベルでの応用面については、ニーズが高いにもかかわらず行われていない。本シンポジウムでは、ハイレベルなスポーツ現場での睡眠管理や睡眠障害の治療という実践・応用を紹介し、スポーツ医学に寄与できる睡眠医療の発展につなげたい。

シンポジウム8「日本の睡眠医療の歴史と未来」

大会長指定シンポジウム

7月18日(木) 13:15~14:45 A会場 G301+G302

オーガナイザー：千葉 伸太郎 / 太田睡眠科学センター

シンポジウム9「ヒトの口腔咽頭機能を極める」

7月18日(木) 13:15~15:15 C会場 G304

オーガナイザー：佐藤 誠 / 守谷慶友病院 守谷いびき・無呼吸センター

【ねらいと概要】閉塞性無呼吸の好発部位は、他の哺乳類には存在しない長い咽頭腔である。この長い咽頭腔の主機能は、咀嚼嚥下運動時にのみ閉塞することと、呼吸運動時には上気道(導管機能)としてほぼ常時開存していることであるが、この導管機能が睡眠中に破綻して閉塞性無呼吸が発生する。本シンポジウムでは、この導管機能維持に重要な舌を主とした口腔咽頭筋群の解剖生理学を極め、閉塞性無呼吸に対する治療法を模索する。

シンポジウム10「心血管ヘルスプロモーションにおける睡眠の重要性」

7月18日(木) 13:15~14:45 D会場 G401

オーガナイザー：葛西 隆敏 / 順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学

【ねらいと概要】2022年米国心臓協会は健康増進のための心血管健康7指標に睡眠を加え8指標に改訂した(Life's Essential8:LE8)。各指標やわが国での応用についての議論は不十分である。本セッションでは理解を深め、わが国独自の心血管ヘルスプロモーションの必要性を議論する。

シンポジウム11「放熱・代謝と睡眠」

7月18日(木) 13:15~14:45 E会場 G402

オーガナイザー：有竹 清夏 / 公立大学法人埼玉県立大学

【ねらいと概要】体温調節・代謝調節はヒトの生命機能として重要な役割を果たしており、睡眠と密接に関わっている。ここでは体温調節機能として重要な熱産生・熱放散(放熱)やエネルギー代謝に焦点を当て、その日内変動特性や運動、温浴、温熱刺激・環境、加齢、性差、月経周期、主観的評価等との関連を整理し、放熱・代謝と睡眠について考える。これらが日常生活や臨床における睡眠・健康問題の改善にどう貢献していけるか積極的に議論したい。

シンポジウム12「中枢性過眠症の病態研究」

7月18日(木) 13:15~14:45 F会場 G312+G313

オーガナイザー：本多 真 / 東京都医学総合研究所睡眠プロジェクト

【ねらいと概要】睡眠・覚醒中枢の機能異常に基づく中枢性過眠症は睡眠科学と睡眠医学を両輪とする睡眠学の進展に寄与してきた。NT1 の遺伝環境因子と DNA 低メチル化の意義、オレキシン欠乏に伴う REM 睡眠異常と中途覚醒症状理解、マウスモデルに適応できる睡眠酩酊の客観的病態評価法の提唱、酸化ストレスと中枢性過眠症の関連など、多彩なアプローチで過眠症の症状評価と理解を進める新知

見を紹介し研究の発展を促進することを目的とする。

シンポジウム 13 「慢性不眠症に対する各種治療法の実力を考える」

7月18日(木) 13:15~14:45 G会場 G314+G315

オーガナイザー：井上 雄一 / 睡眠総合ケアクリニック代々木

【ねらいと概要】 不眠治療にあたっては、近年新規薬剤が導入され、認知行動療法(CBT-I)についても対面式、グループ、アプリを用いた手技などに細分化されている。これらは、それぞれ十分なメリットがあるものの、副作用や効果不十分などの欠点も存在する。本シンポでは、新旧の各種治療の特徴・適応と限界を明らかにし、他治療との併用の可能性(または禁忌)についても考えてみたい。これらは不眠症のテーラーメイド治療を促進するカギになりうる。

シンポジウム 14 「本邦における埋め込み型舌下神経電気刺激療法の現況と今後への課題・対策」

7月18日(木) 14:45~16:45 E会場 G402

オーガナイザー：原 浩貴 / 川崎医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

【ねらいと概要】 埋め込み型舌下神経電気刺激療法は、本邦において現在 25 症例を超える実施が行われ、適応から手術手技、術後の fine tuning、フォローまで、本邦における知見が蓄積されつつある。本シンポジウムでは本治療の今後の普及に向けての mile stone とすべく、2 例以上の埋め込みを実施した施設から、現状の報告を行うとともに、今後に向けての課題とその対策についての提言を求める。(日本耳鼻咽喉科学会ならびに日本口腔咽頭科学会と共催予定)

シンポジウム 15 「免疫アレルギーと睡眠」

7月18日(木) 14:45~16:45 F会場 G312+G313

オーガナイザー：本間 あや / 北海道大学大学院医学研究院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室

【ねらいと概要】 免疫システムと睡眠の関連は古くより指摘されているものの、その背景にあるメカニズムに関しては未だ不明な点が多い。本シンポジウムでは、免疫と睡眠の病態生理に関する最新の研究から、臨床現場における取り組みに至るまで、幅広い領域のエキスパートにご登壇いただき、アレルギー大国とも言われる我が国の睡眠の質を向上させるべく、今後の課題について議論したい。

シンポジウム 16 「避難所環境と睡眠」

7月18日(木) 14:45~16:45 G会場 G314+G315

オーガナイザー：水野 一枝 / 和洋女子大学

シンポジウム 17 「睡眠を中心とした産業保健領域における最新知見」

7月18日(木) 15:15~16:45 C会場 G304

オーガナイザー：井谷 修 / 国際医療福祉大学 医学部 公衆衛生学

【ねらいと概要】 日本睡眠学会内に設置されている「産業保健関連委員会」において、産業保健領域に関係した睡眠問題について、研究や各種啓発活動を行っている。今回、学会における幅広い啓蒙活動や研究成果の発表の目的で、委員を中心としたシンポジウムを企画した。なお、本シンポジウムは関連の深い日本公衆衛生学会の「休養睡眠委員会」とのコラボレーション企画とする。

シンポジウム 18 「アリピプラゾールの睡眠・覚醒リズムへの作用:基礎と臨床の視点より」

7月18日(木) 15:15~16:45 H会場 G316+G317

オーガナイザー：北島 剛司 / 藤田医科大学医学部 精神神経科学講座

【ねらいと概要】 近年アリピプラゾールが概日リズム睡眠・覚醒障害などの起床困難を呈する睡眠障害に有効との報告が相次いでいる。同薬剤の睡眠・覚醒リズムへの作用は従来、ドパミン部分作動による覚醒促進を中心に考えられてきたが、最近の動物実験より、視交叉上核への直接作用を介する可能性が示唆されている。その作用機序を基礎と臨床の視点より検討することで、有効なケースの選び方や、リズム障害の病態の解明にも資するのがねらいである。

シンポジウム 19 「Innovation of Sleep Health」

7月19日(金) 8:30~10:30 A会場 G301+G302

オーガナイザー：千葉 伸太郎 / 太田睡眠科学センター

シンポジウム 20 「睡眠医療における多職種専門性と連携強化」

7月19日(金) 8:30~10:30 B会場 G303

オーガナイザー：高江洲 義和 / 琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座

【ねらいと概要】 睡眠障害は多領域に存在するため、その診療には、医師、歯科医師、臨床検査技師、心理師、看護

師、薬剤師などの多職種連携が重要となる。日本睡眠学会では総合専門医、歯科専門医、専門検査技師、専門心理師など様々な学会認定資格が存在するが、今後更に看護師や薬剤師等の幅広い職種での専門性を高める取り組みが期待されている。本シンポジウムでは各職種における専門性や多職種での連携強化について議論したい。

シンポジウム 21 「アリピプラゾール治療の新たな視点 ～体内リズムと朝起きに与える変化～」

7月19日(金) 8:30～10:00 C 会場 G304

オーガナイザー：小鳥居 望 / 医療法人仁祐会 小鳥居諫早病院

【ねらいと概要】これまでリズム後退や夜間睡眠の延長に寄与する治療薬はなかったが、アリピプラゾール(APZ)の少量投与にリズムの改善作用があることが報告され、最近ではその薬理的な作用機序も徐々に明らかになりつつある。本シンポジウムでは、心理社会的療法とともに有力な治療法となりつつある APZ による時間生物学的治療の最新の知見とともに、多くの改善例を経験したエキスパートが、本剤が有効性を発揮する様々な治療場面を紹介する。

シンポジウム 22 「CPAP のオンライン診療のこれからを考える」

7月19日(金) 8:30～10:00 D 会場 G401

オーガナイザー：富田 康弘 / 虎の門病院睡眠呼吸器科

【ねらいと概要】睡眠時無呼吸症候群患者の CPAP をオンライン診療で管理するという選択肢は広く利用され得ると期待できるため、日本遠隔医療学会では「CPAP オンライン診療に関する指針」を策定し公開した。本シンポジウムは日本遠隔医療学会との合同シンポジウムとして開催され、多くの日本睡眠学会会員にオンライン診療の背景と情報通信機器を用いた疾病管理という概念を共有し、これからの CPAP のオンライン診療のあり方について議論する場としたい。

シンポジウム 23 「心房細動と睡眠時無呼吸 ーその対応からメカニズム解明までー」

7月19日(金) 8:30～10:00 E 会場 G402

オーガナイザー：椎名 一紀 / 東京医科大学循環器内科学分野

【ねらいと概要】心房細動患者では高率に閉塞性睡眠時無呼吸 (OSA) を合併することが報告されている。そして OSA の合併は、心房細動に対するカテーテルアブレーション治療後の再発を増加させることが分かってきた。しかしながら、心房細動患者における OSA のスクリーニングは施設により異なり、両者の関連性に潜むメカニズム解明も十分ではない。本シンポジウムでは様々な立場のエキスパートによりこれらの問題点に関して議論したい。

シンポジウム 24 「実効性の高い睡眠教育の展開:睡眠教育のピットフォール」

7月19日(金) 8:30～10:00 F 会場 G312+G313

オーガナイザー：綾部 直子 / 秋田大学教育文化学部

【ねらいと概要】新しい睡眠指針(厚生労働省)では、年代別の推奨睡眠時間が設定され、子どもに対してもはじめて睡眠時間の目安が発表される予定である。ところが、実際には睡眠時間の延長や睡眠・覚醒リズムの改善は容易ではなく、睡眠教育を行う上では様々な視点からの工夫や対応が求められる。本シンポジウムでは、睡眠教育の現場で起きている問題点や課題に焦点を当て、実効性の高い睡眠教育の在り方について議論を深めたい。

シンポジウム 25 「眠気に伴う事故・パフォーマンス低下の防止に向けた最新の知見」

7月19日(金) 8:30～10:30 G 会場 G314+G315

オーガナイザー：阿部 高志 / 筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構

【ねらいと概要】睡眠不足や夜勤時に起こる事故やパフォーマンスの低下は、依然として十分に防止されているとは言えない。この重要な課題に対処するためには、基礎研究に加えて、職場や運転時などの実際の環境での検証が不可欠である。本シンポジウムでは、眠気の検知や防止に関する最新の知見を、実験室実験、労働場面、運転場面、疫学的観点から紹介し、この課題に対する包括的な理解と実践的な対策について議論を深めたい。

シンポジウム 26 「ソーシャル・ジェットラグ研究の新しい展開」

7月19日(金) 8:30～10:25 H 会場 G316+G317

オーガナイザー：西多 昌規 / 早稲田大学スポーツ科学学術院

【ねらいと概要】ソーシャル・ジェットラグ(SJL)が心身の健康や日常生活に与える影響の解明は徐々に進んでいる。しかし対象者の個人差や性質の違いを考慮した研究は少ない。また、健康要素やパフォーマンスの要素に分けての検討も不十分である。本シンポジウムでは、高校生やシフトワーカーに限定した対象者を選定した研究、運動機能や食習慣といった新しい視点から SJL の影響を検証した研究を紹介

し、SJM 研究の新しい展開を刺激したい。

シンポジウム 27 「脳神経内科領域の common diseases の睡眠覚醒の問題を極める」

7月19日(金) 10:00~12:00 C会場 G304

オーガナイザー：宮本 雅之 / 獨協医科大学看護学部/大学病院睡眠医療センター

【ねらいと概要】 脳神経内科のみならず非専門医でも日常診療において遭遇することが多い脳神経内科の common diseases でみられる睡眠覚醒の問題について、最新の知見を含めて情報を共有し、総合討論を通して日常診療の実践に役立てる。

シンポジウム 28 「日本の睡眠疫学研究の現状と今後の発展について」

7月19日(金) 10:00~12:00 F会場 G312+G313

オーガナイザー：森田 えみ / 筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構

【ねらいと概要】 近年、日本でも睡眠に注力した疫学研究が行われている。かつては、疫学では睡眠の客観評価は稀であったが、近年、睡眠デバイスの急速な普及により、研究レベルでも客観評価も取り入れられるようになってきた。また、海外では質の高い研究の達成のため、コンソーシアムによる大規模化も進んでいる。このような変革が起こりつつある中、各研究グループの特徴を紹介し、今後の日本の睡眠疫学研究の方向性について議論を行う。

シンポジウム 29 「小児 OSA の医科歯科連携とエビデンスのある歯科的治療の確立」

7月19日(金) 10:00~12:00 G会場 G314+G315

オーガナイザー：岩崎 智憲 / 徳島大学大学院医歯薬学研究部小児歯科学分野

【ねらいと概要】 近年、小児の睡眠や口腔機能に関心が高まっている。しかし小児 OSA については医科歯科連携が取れておらず、また、口腔機能発達不全症に結び付けて査読付きの論文や診療ガイドラインに基づかないエビデンスのない歯科的治療が単独で展開されている場合もある。そのため小児 OSA の臨床の現場では多くの混乱が生じている。そこで本シンポジウムは小児 OSA の医科歯科連携とエビデンスのある歯科的治療の確立を目的に企画した。

シンポジウム 30 「エビデンスと社会実装の両輪で考える不眠症の認知行動療法の新たな展開」

7月19日(金) 10:30~12:00 E会場 G402

オーガナイザー：中島 俊 / 筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構

【ねらいと概要】 不眠症治療のガイドラインにおいて、不眠症の認知行動療法 (Cognitive behavioral therapy: CBT-I) が第一選択として推奨されている。しかしながら、実臨床で CBT-I が実施されることは世界的に少なく、社会実装が遅れている。また、センシング技術の進歩に伴い、CBT-I における客観的睡眠の測定のは是非が議論されている。本シンポジウムではこれらの話題提供を行い、日本でのより良い不眠症治療について考える。

シンポジウム 31 「集中治療と睡眠」

7月19日(金) 10:30~12:00 H会場 G316+G317

オーガナイザー：佐藤 暢夫 / 聖マリアンナ医科大学麻酔学

【ねらいと概要】 睡眠障害は集中治療室 (ICU) における重大な問題である。ICU 患者の睡眠不足はさまざまな悪影響をもたらす、患者の予後を悪化させ、回復の遅れ、ICU 滞在の長期化、死亡率の上昇につながる可能性がある。本シンポジウムでは集中治療における睡眠問題の現状と課題について考えていきたい。

シンポジウム 32 「健康づくりのための睡眠ガイド 2023」の活用と今後の展開」

7月19日(金) 13:30~15:30 B会場 G303

オーガナイザー：栗山 健一 / 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所

【ねらいと概要】 睡眠・覚醒障害研究部 2024 年度より、21 世紀における国民健康づくり運動 (健康日本 21) の第三次プランが開始されるにあたり、厚生労働省は「健康づくりのための睡眠ガイド 2023」を策定し、新たな休養目標を定めた。これらを国民の睡眠健康増進に活用するためには、単なる普及・啓発にとどまらず、これらを活用した取り組みを社会実装し、運用する必要がある。本シンポジウムでは新・休養目標および「睡眠ガイド 2023」の活用方法と今後の展開に関して議論する。

シンポジウム 33 「シフトワーカーのウェルビーイングを高める(第 2 回)」

7月19日(金) 13:30~15:30 C会場 G304

オーガナイザー：西野 精治 / スタンフォード大学精神科

【ねらいと概要】 睡眠生体リズム研究所シフトワークは、本来人間が持つ生体リズムに反した働き方で、作業効率の低

下をまねき、生活習慣病や悪性腫瘍の発症リスクを高める。一方、グローバルなビジネス環境に対応し社会機能を維持するためにシフトワークは不可欠である。睡眠、時間生物学、時間栄養学の専門家に加え企業経営者にも参加いただき、シフトワーカーのウェルビーイングを高め、産業の発展に貢献できる方策を科学的視点、現場管理の視点から議論する。

シンポジウム 34 「ムーンショット:睡眠基礎研究の最前線」

7月19日(金) 13:30~15:30 F会場 G312+G313

オーガナイザー：柳沢 正史 / 筑波大学

【ねらいと概要】 IIS で進行中の AMED ムーンショット・プロジェクトに所属する若手研究者の最新成果を例に、モデル動物としてマウスを用いた睡眠メカニズム実験研究の最前線を紹介する。

シンポジウム 35 「我が国の restless legs 症候群 (RLS) の臨床的意義と治療を考える」

7月19日(金) 13:30~15:30 G会場 G314+G315

オーガナイザー：井上 雄一 / 睡眠総合ケアクリニック代々木

【ねらいと概要】 RLS の概念と臨床的な意義は一般診療に浸透してきているが、まだ二次性 RLS の実態、日中機能への影響の詳細、合併病態との因果関係は明らかでないし、白人と異なる日本人での臨床特性は十分解明されていない。本シンポでは、これらの諸点について検討するとともに、ドパミン系製剤、 $\alpha 2$ δ リガンドに次ぐ第三の治療オプションとなるオピオイド製剤の意義についても言及したい。

シンポジウム 36 「精神疾患に伴う睡眠障害に対する非定型抗精神病薬の新しい使い方の可能性」

7月19日(金) 13:30~15:00 H会場 G316+G317

オーガナイザー：小曾根 基裕 / 久留米大学医学部神経精神医学講座

【ねらいと概要】 非定型抗精神病薬の開発が進むにつれ、その位置づけに変化がみられる。睡眠・覚醒作用については保険適応がないものの、アリピプラゾールは過眠症状に対して有効性が多く報告されている。またラランドンについても眠気に対する作用が臨床上散見される。本シンポジウムでは新規非定型抗精神病薬による睡眠・覚醒に関連した作用について新たな可能性を探る。

シンポジウム 37 「ICSD-3-TR と難病、難治性肺泡低換気診療ガイドライン」

7月19日(金) 15:00~17:10 D会場 G401

オーガナイザー：陳 和夫 / 日本大学医学部内科学系睡眠学分野

【ねらいと概要】 睡眠医学・呼吸管理学指定難病肺泡低換気症候群には先天性中枢性肺泡低換気症候群(CCHS)、特発性中枢性肺泡低換気(ICAH)、肥満低換気症候群の一部が含まれるが、いずれの病態も夜間の睡眠呼吸障害の管理が重要である。PHOX2B 遺伝子異常は CCHS 患者のほとんどにみられ、ICAH の鑑別にも重要であるが、健康保険適応の検査として認められていない。現在、診療ガイドライン作成進行中であり、本シンポジウムでの討議が重要である。

シンポジウム 38 「入院中の転倒・転落や譫妄と睡眠薬について」

7月19日(金) 15:00~17:00 H会場 G316+G317

オーガナイザー：篠邊 龍二郎 / 愛知医科大学病院 睡眠科・睡眠医療センター

【ねらいと概要】 入院中の転倒・転落や譫妄と睡眠薬について 入院中に転倒・転落や譫妄の出現によって、入院期間の延長、医療費の増大が、また、その患者にとっては、予後に多大に影響する。前回の、シンポジウムでは、睡眠薬のフォミュラリ等によって、転倒率などの低下に影響したかや、その対策などについて、討論したが、今回は、その後の経過や、持参薬処方に対しての対策に焦点をあてて討論したい。

シンポジウム 39 「舌下神経電気刺激療法における多職種連携を考える」

7月19日(金) 15:30~17:30 E会場 G402

オーガナイザー：山内 基雄 / 奈良県立医科大学 臨床病態医学／呼吸器・アレルギー内科

【ねらいと概要】 舌下神経電気刺激療法が普及しつつあるが、医師のみではなく、睡眠検査技師を含めた多職種連携が治療の成功に大きく影響する。とりわけ Patient selection と刺激強度タイトレーション PSG は医師と技師が、長期管理においては看護師の参画も加えた協働が重要と思われる。本シンポジウムでは、各職種からの経験に基づいたプレゼンテーションを通して、向後、どのように協働して舌下神経電気刺激療法を行っていくかをディスカッションしたい。

シンポジウム 40 「睡眠障害の病因、病態の動物モデル」

7月19日(金) 15:30~17:30 F会場 G312+G313

オーガナイザー：西野 精治 / 米国スタンフォード大学

【ねらいと概要】 企画者:西野精治先生

シンポジウム 41 「これからの睡眠看護を考えよう！ 実践と展望 ～患者の睡眠を支える看護実践から夜を支える看護師の働き方まで～」

7月19日(金) 15:30～17:30 G会場 G314+G315

オーガナイザー：青木 裕見 / 聖路加国際大学大学院看護学研究科

【ねらいと概要】本シンポジウムは、これからの睡眠看護を探求することをねらいとする。4名の看護職が「睡眠の質を高める看護実践」「睡眠医療における意思決定支援」「睡眠医療センターにおける看護師の役割」「看護職の夜勤時間短縮にむけて」について話題提供し、不眠症、OSAなどの睡眠障害への看護実践から、治療の導入・出口における意思決定支援、シフト勤務の看護師の睡眠を向上させる方略まで、広く睡眠看護の展望について議論したい。

共催シンポジウム 1 「高齢化社会における不眠症医療を考える」

7月18日(木) 14:45～16:45 A会場 G301+G302

オーガナイザー：三島 和夫 /

共催シンポジウム 2 「女性の睡眠呼吸障害(SDB)の重要性」

7月18日(木) 14:45～16:45 B会場 G303

オーガナイザー：池上 あずさ / くわみず病院

【ねらいと概要】睡眠医療センター海外の疫学調査におけるSDB発症率の男女比は、2～3:1と性差があるが、本邦ではさらに乖離は大きく、未診断の女性のSDBは多いと推定される。本シンポジウムでは、海外及び本邦での女性のSDBの現状と今後の展開について、女性のSDBの生理学的・解剖学的特徴からみた発生機序の違い、さらに口腔内歯科装置(OA)治療及びCPAP療法によるそれぞれの特徴についての5講演により女性のSDBの病態に深く切り込みを入れる。

【ワークショップ】

ワークショップ 1 「動脈硬化と睡眠時無呼吸」

7月18日(木) 8:30～10:30 E会場 G402

オーガナイザー：葛西 隆敏 / 順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学

【ねらいと概要】近年、睡眠時無呼吸と心房細動、心不全のエビデンスは蓄積されてきたが、動脈硬化・動脈硬化性疾患とのかかわりについての新規データは少ない。本セッションでは、動脈硬化とのかかわりに関して、何が分かっているか、何が分かっているのか整理する。

ワークショップ 2 「呼吸イベント判定を掘り下げてみよう」

7月18日(木) 13:15～14:45 B会場 G303

オーガナイザー：八木 朝子 / 久留米大学学長直属

【ねらいと概要】PSGの判定について症例を通じて学ぶワークショップであり、日本睡眠検査学会と合同で企画した。今回は呼吸イベント判定をテーマとし、通常の測定や判定基準では異常呼吸と検出できないことや病態生理を反映できない場合を経験するが、どこに着目し、どのような観点で見るとかなどの意見交換を行い、呼吸イベントの評価法を深く考える機会としたい。

ワークショップ 3 「ポストコロナ社会に求められる在宅睡眠医療」

7月18日(木) 13:15～15:15 H会場 G316+G317

オーガナイザー：野田 明子 / 中部大学大学院生命健康科学研究科

【ねらいと概要】超高齢化社会、ポストコロナ社会において在宅睡眠医療を整えることは今後益々重要となっている。睡眠障害・精神神経疾患・心不全の予防・早期発見・治療・リハビリは健康寿命の延伸に貢献できると考えられる。本ワークショップでは在宅睡眠医療体制の構築と今後の展開について討論する。

ワークショップ 4 「PSGで経験した判定困難、あるいは特異な症例」

7月18日(木) 14:45～16:45 D会場 G401

オーガナイザー：川名 ふさ江 / 順天堂大学大学院医学系研究科心血管睡眠呼吸医学講

【ねらいと概要】睡眠学会員の検査技師といっても、OSA判定を目的としたPSG記録や解析に偏りがちな技師が圧倒的に多いことが現状と思われる。また遭遇した症例の中でも判定や病態に疑問がありながら、判断ができずに放置されているか、あるいは看過されている例もあると聞く。今回は経験の少ない特異な症例を中枢性呼吸イベントも含めて提示する。またPSG以外にもMSLTやMWTの記録例も含まれ、より教育的見地を高めることを目的としている。

ワークショップ 5 「SRNG研究会企画：本邦のエビデンスより紡ぐ最適なCPAP療法への戦略」

7月19日(金) 10:00~12:00 D会場 G401

オーガナイザー：葛西 隆敏 / 順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学

【ねらいと概要】 CPAPアドヒアランスに関連したわが国のエビデンスは散見されるが、研究成果に基づく議論は不十分である。SRNG研究会はリーサーチネットワークを形成し睡眠研究推進を目指しているが、本企画を通じて臨床に還元できる研究をさらに推進したいと考えている。

ワークショップ6「覚醒維持検査の適正使用のあり方」

7月19日(金) 10:30~12:00 A会場 G301+G302

大会長指定ワークショップ

オーガナイザー：井上 雄一 / 東京医科大学睡眠学講座

【ねらいと概要】 覚醒維持検査(MWT)は、過眠症の重症度を反映する日中の覚醒維持機能を評価する、オーソライズされた唯一の方法である。本治療は、過眠症状を呈する疾患患者の治療効果判定、危険作業の可否の判定の資料として用いられる。本ワークショップでは、MWTの事前準備と実施法、適応疾患、結果の解釈についての注意点などを総合的に取り上げ、本検査の適正使用に貢献したいと考えている。

ワークショップ7「JAPAN CPAP CLINICAL ACTIVE REGISTRY (J-PAP-CAR)の現状」

7月19日(金) 13:30~15:00 D会場 G401

オーガナイザー：陳 和夫 / 日本大学医学部内科学系睡眠学分野睡眠医学・呼吸管理学会

【ねらいと概要】 本邦初となる、CPAP患者のレジストリーが2024年から開始された。開発の経緯としくみ、また、現在、行われている3つの臨床研究 1) CPAPアドヒアランスとJ-PAP-CARの現状、2) CPAP患者の眠剤使用とJ-PAP-CARの現状、3) CPAP患者の残存眠気とJ-PAP-CARの現状についての報告を受け討議する。

ワークショップ8「あなたのSAS診療の疑問にお答えします」

7月19日(金) 13:30~15:30 E会場 G402

オーガナイザー：吉村 力 / 福岡大学医学部 衛生・公衆衛生学

【ねらいと概要】 SAS診療は、医師・歯科医師・検査技師・看護師などが担当するが、その職種によりわからないことも多い。睡眠を専門とする各職種においてその疑問にエビデンスを用いてお答えします。

- ・CPAPをしても血圧が下がりません。なぜですか？
- ・OAを長期間しても副作用はないですか？
- ・PSG検査中に眠れません。眠剤は？
- ・CPAP titrationで中止すべき時はどのような時ですか？
- ・SASと転倒は関係ありますか？ など”

ワークショップ9「CPAPの指導と管理をしていますか？」

7月19日(金) 15:30~17:30 B会場 G303

オーガナイザー：富田 康弘 / 虎の門病院睡眠呼吸器科

【ねらいと概要】 CPAP療法の外来管理においては指導管理料(在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料)が算定されているが、実際に行われている指導や管理の実態は不明であり、具体的な基準も設けられてはいない。治療効果を十分に得るためには、外来における適切な指導と管理が必要である。本シンポジウムでは、各専門領域の立場から非専門医においても要求し得る指導と管理の目標を提案する。これをもとに全国で行われるCPAP療法の水準を引き上げることにつなげたいと考えている。

ワークショップ10「睡眠障害当事者の声を聞く2024」

7月19日(金) 15:30~17:30 C会場 G304

オーガナイザー：志村 哲祥 / 東京医科大学 精神医学分野

【ねらいと概要】 <PPI: Patient and Public Involvementの観点から>

臨床現場においては患者と正対しているのは自明であるが、医療政策の決定や医学的研究においても、その意思決定に患者および公的な視点の参加・関与・参画を求める動きが世界的潮流となっている。

毎年行われている本患者会シンポは、学会に対して患者当事者との貴重な接点を提供し、当事者へは、臨床・研究・社会に対して求められる洞察や提言を行う、創発の場となる。”

【Meet the expert】

※事前オンデマンド配信(会期前からの視聴が可能)

各ご担当の先生方からの各専門領域に事前オンデマンド配信を行います。学術集会ご参加登録後、別途申込制となります。事前オンデマンド配信に関しましては、学術集会への参加登録をされた方全てが会

期前からご視聴可能です。Meet the expert は申込制で各領域(講師あたり)定員 15 名(先着順)となります。

下記日程時間帯の中の 45 分間(プログラム日程表を参照してください)

7 月 18 日(木) 8:30~10:30、13:15~14:45 1F G3+4

7 月 19 日(金) 8:30~12:00、13:30~17:30 1F G3+4

【教育セミナー】

※事前オンデマンド配信(全てではない可能性があります)

動画による、事前オンデマンド配信が可能なセミナーに関しては、ご参加登録後、会期以前からご視聴いただくことが可能です。

教育セミナー(歯科医師)

7 月 19 日(金) 13:30~14:50 1F G3+4 会場

座長:佐藤 一道 / 東京歯科大学 オーラルメディシン・口腔外科学講座

猪子 芳美 /

講師:田原 優 /

松田 一乗 /

教育セミナー(医師)

7 月 19 日(金) 14:50~16:10 1F G3+4 会場

座長:岡 靖哲 /

角谷 寛 / 滋賀医科大学医学部 睡眠行動医学講座

講師:宮崎 総一郎 /

内山 真 / 滋賀医科大学 泌尿器科学講座

教育セミナー(検査技師)

7 月 19 日(金) 16:10~17:30 1F G3+4 会場

座長:野田 明子 / 中部大学生命健康科学部生命医科学科

増田 真一 /

講師:北川 博之 / 旭川医科大学精神医学講座「AI による睡眠段階の判定」(仮)

武井洋一郎 / 東邦大学医療センター 大森病院 臨床生理機能検査部

「CPAP タイトレーションの新たな意義～アドヒアランス向上を見据えた活用法～」

【共催シンポジウム】

共催シンポジウム 1 「高齢化社会における不眠症医療を考える」

7 月 18 日(木) 14:45~16:45 A 会場 G301+302

共催:エーザイ株式会社

オーガナイザー:三島 和夫 / 秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座

共催シンポジウム 2 「女性の睡眠呼吸障害(SDB)の重要性」

7 月 18 日(木) 14:45~16:45 B 会場 G303

共催:レスメド株式会社

オーガナイザー:池上 あずさ / くわみず病院 睡眠医療センター

【ねらいと概要】 海外の疫学調査における SDB 発症率の男女比は、2[~]3:1 と性差があるが、本邦ではさらに乖離は大きく、未診断の女性の SDB は多いと推定される。本シンポジウムでは、海外及び本邦での女性の SDB の現状と今後の展開について、女性の SDB の生理学的・解剖学的特徴からみた発生機序の違い、さらに口腔内歯科装置(OA)治療及び CPAP 療法によるそれぞれの特徴についての 5 講演により女性の SDB の病態に深く切り込みを入れる。

【ランチョンセミナー】

ランチョンセミナー1

7 月 18 日(木) 12:15~13:15 A 会場 G301+302

共催:株式会社ジンズ

ランチョンセミナー2

7 月 18 日(木) 12:15~13:15 B 会場 G303

共催:レスメド株式会社

- ランチョンセミナー3
7月18日(木) 12:15～13:15 C会場 G304 共催:アイ・エム・アイ株式会社
- ランチョンセミナー4
7月18日(木) 12:15～13:15 D会場 G401 共催:MSD 株式会社
- ランチョンセミナー5
7月18日(木) 12:15～13:15 E会場 G402 共催:アキュリスファーマ株式会社
- ランチョンセミナー6
7月18日(木) 12:15～13:15 G会場 G314+315 共催:持田製薬株式会社
- ランチョンセミナー7
7月18日(木) 12:15～13:15 H会場 G316+317 共催:アステラス製薬株式会社
- ランチョンセミナー8
7月19日(金) 12:15～13:15 A会場 G301+302 共催:エーザイ株式会社
- ランチョンセミナー9
7月19日(金) 12:15～13:15 B会場 G303 共催:MSD 株式会社
- ランチョンセミナー10
7月19日(金) 12:15～13:15 C会場 G304 共催:帝人ファーマ株式会社
- ランチョンセミナー11
7月19日(金) 12:15～13:15 D会場 G401 共催:Inspire Medical Systems Japan 合同会社
- ランチョンセミナー12
7月19日(金) 12:15～13:15 E会場 G402 共催:株式会社テックドクター
- ランチョンセミナー13
7月19日(金) 12:15～13:15 F会場 G312+313 共催:フクダ電子株式会社
- ランチョンセミナー14
7月19日(金) 12:15～13:15 G会場 G314+315 共催:ノーベルファーマ株式会社
- ランチョンセミナー15
7月19日(金) 12:15～13:15 H会場 G316+317 共催:株式会社ライフエンリッチ
- 【一般演題 ポスターショートプレゼンテーション】**
7月18日(木) 8:30～10:30、13:15～14:45 1F G3+4
7月19日(金) 8:00～12:15 1F G3+4

【一般演題 口演発表】

7月18日(木) 10:35～11:30 A会場 G301+302

10:35～12:00 B～H 会場(G303～G316+317)

【一般演題 ポスター発表】

ポスター・展示会場 1F G1+2

7月18日(木) 8:00 ～ 9:00 ポスター掲示

9:00 ～ 16:45 ポスター閲覧

7月19日(金) 8:00 ～ 17:30 ポスター閲覧

17:30 ～ 18:30 ポスター撤去

【第29回研究症例賞受賞講演】

7月18日(木) 11:30～12:00 A会場 G301+302